

平成 26 年度第 2 回一宮市子ども読書活動推進懇話会 会議録（要旨）

- 1 開催日時 平成 27 年 1 月 28 日（水）午後 1 時 50 分～午後 3 時 35 分
- 2 開催場所 中央図書館 7 階 講座室
- 3 出席者 懇話会委員 9 名（欠席 1 名）
事務局 7 名
- 4 議題
 - （1）平成 26 年度「子ども読書のまち宣言」啓発事業について
 - （2）その他
- 5 開会（事務局が開会を宣言）

「子ども読書のまち宣言」唱和

図書館長挨拶

懇話会会長挨拶

 - ・ 議事の進行は、一宮市子ども読書活動推進懇話会設置要綱第 5 条に基づき、子ども読書活動推進懇話会会長が務めた。
- 6 会議録（要旨）
 - （会長） 議題（1）について、審議をお願いします。
 - （事務局） 平成 26 年度「子ども読書のまち宣言」啓発事業について説明。
読み聞かせボランティアによる子ども読書の日記念行事の開催状況、人材育成のための読み聞かせボランティアステップアップ講座、講習会開催を報告。
 - （委員） 図書館へ行ったことがないという若いお母さんがみえました。図書館での読み聞かせ等の案内を 1 歳児の保護者に直接出してはどうでしょうか。図書館来館の機会になると思いました。
 - （事務局） ブックスタート時に各図書館の案内をしておりますが、第 11 回市政アンケートでもまだ図書館に来たことがないという方が結構あり、図書館への来館を促す PR が必要と感じています。
 - （委員） 市政アンケートでは、駐車場・駐輪場が有料であることがネックではないかということが掲載されていましたが、この冬休みに 8 時間無料駐輪券を利用した高校生以下の学生の方は、どれくらいありましたか。
 - （事務局） 平成 26 年 8 月の例で説明させていただきます。休館日を除いて 29 日間に、2 時間無料の分も含め全部で 4,610 台、その内の 1,026 台が 8 時間無料の取り扱いでの利用でした。1 日あたり 35 台程度という利用状況です。
 - （委員） 読書通帳は、認定証をもらったら、その古い通帳は図書館で預かってしまうのではなく、またお返しされますか。
 - （事務局） お返ししています。読書記録をお持ちいただくことで、大きくなってからまた中を見直すことでこの本面白かったな、もう一度読んでみようという使い方ができるのではと思います。
 - （委員） 図書館でおはなし会に来てくれる子ども達ですが、読書通帳を持っている子どもが多いと思います。見せてと言うと中に書名のほかに絵を描いているお子さんもいて、いい取り組みだと思いました。
私達がおはなし会をする時には、中学生の子がおはなし会に来てくれるチャンスがなくて、中学生がどれくらい読書に親しんでいるかを知るために 11 月のビブリ

オバトルに参加しました。この時にはたくさんの中学生が来ていて、意見を聞くと、家族みんな本が好きで 2 週間に一度は必ず図書館に来ているという男の子がいました。図書館が好きで、本が好きな子ども達がたくさんいるということを感じて、このビブリオバトルを中学生対象にされたことはすごくいいことだと思いました。

それで図書館に来館して本を借りる中学生の方は、どれくらいでしょうか。

(事務局) 平成 25 年 6 月の貸出冊数状況ですが、0～6 歳までの合計が 7,612 冊、7～12 歳までが 14,400 冊、13～15 歳につきましては 2,589 冊、16～18 歳が 2,319 冊という状況です。小学校は 6 年、中学校は 3 年と年数の違いがあり、仮に小学生を半分にして 7,000 としても、中学生の貸出冊数は、約 3 分の 1 ということです。これはあくまでも傾向で申し上げたものです。

(委員) 実際に子ども達と触れ合う機会があると、その子ども達の持っているエネルギーとか素晴らしさというものを痛感することが多々あって、やはりこの子ども達のために私達大人がなんとかいい読書環境を図書館の方と力を合わせながら作っていかれたらと思っています。

ビブリオバトルや読書通帳などの啓発事業についてのお知らせを子どもの目に付く所に設置してあると、子ども達が入ってきた時に、あっ、あれもやっている、こんなこともあるんだと子ども達が見てくれて、意欲を持ってくれるのではと思いました。

読書通帳ポスターですが、低学年の子どもにも分かるような言葉と表示で親しみやすいものを作り、図書館に掲示したら、さらに 30 冊の認定者がたくさん増えるのではと思いました。

(事務局) 読書通帳につきましては、5 階カウンターの所に認定冊数のポスターを掲示し、なるべく目立つようには考えていますが、まだまだ不十分ですので、今後よりよい方法を考えていきたいと思っています。

(委員) 啓発ポスター作品ですが、せっかくこんないい作品を作ってくださっているので応募作品を 1 年ほど預かせてもらって、月毎に入れ替えるなどして掲示してほしいと思います。

読書サミットを見学して大変参考になりました。子ども達が意見を出し合い、発見し、新しい物を構築し、門戸を広げていると感じました。

図書館だよりの子ども版ですが、これは何処へどう配布していますか。定期的に学校とかへ配布していますか。

(事務局) 市内の公立保育園と小中学校、それから市役所、尾西・木曽川庁舎、博物館、生涯学習関係施設に配布しています。

(委員) 図書館だよりの中にも「子ども読書のまちいちのみや」のスローガンが入っています。全国的にこれほど子ども読書をアピールしたものは、無いと思っています。図書館だよりの中に学校の先生が選ばれた本の紹介がありましたが、素敵だと思いました。図書館を中心にして、ボランティアの方、学校の先生方など子ども達を取り巻く方々みんなでこういったものを作りあげてみえるのだと思いました。5 階の児童室は大人の所と違って結構楽しいです。夢がいっぱい詰まった楽園ではないかとそんな感じがします。

(委員) 子どもだけに読書通帳を渡しても親が知らなければあまり活用されないのではと

思います。できたら親にもうまく伝わるような仕組みがあるといいと思いました。自分の子が大人になった時に子どもの頃に読んだ本を大人になって読むとあの時のワクワク感や楽しさが感じられない。子どもの本は、子どもの時に読まない面白くない。大人になってからでも読めるけど、あの楽しさはやっぱりその時でないと感じられないと言ったことがありました。

やはり小学生、中学生にその時の年代にあった本を読ませたいと感じました。ボランティアで学校図書館へ行っていますが、小学校の図書館司書の先生が、ビブリオバトルをこの間初めて知って6年生の授業1時間を借りてビブリオバトルを実際に行われました。

まだ初めてですので担任の先生と図書館司書の方と2人で発表し、子ども達が聴いて投票するという授業をされたのですが、子ども達がすごく楽しかった。こんなかわった本の発表の仕方があるって初めて知ったと言って喜んでいまして、今度は、子ども達が発表する授業を行いたいと言われていました。

ビブリオバトルも図書館だけではなくて、様々な所で実施していただけたらいいなと感じました。

(事務局) ビブリオバトル、読書サミットなど事業終了後には学校へ事業報告を配信しています。学校関連のもの、子ども関連のものについては、フィードバックしていくこととしていますので、少しずつでも広がっていかないかと思っています。

(委員) 図書館だより子ども版に読書通帳のことを今何冊集めた子が何人いましたとか、この本がお勧めだよという子どもの声を掲載したらもっと身近になっていくのではと思っています。

読書は、赤ちゃんの時から続いていくものなのでブックスタートを大事にしてください。

子どもの成長の中で初めて自分の親と違う大人と接する保育園で、保育園文庫が充実されているのか、保育園の先生達がきちんと子どもに本を手渡しているのか一つずつ押さえていくことが小学生の読書へつながる契機になると思います。

(委員) 8月1日の合同会議の時に未実施項目があり、一つはブックスタートの発展強化もう一つは学校図書館及びその関係者との連携がまだ実現には至っていないということでした。実現に向けて図書館の方々も学校の先生方もご尽力いただいていると思いますが、進展していますか。

(事務局) 学校へ上がる前のお子さんについて、保育課長とも相談しましたが保育園で一斉配布は馴染まないということで、希望のあるお母さんに図書館でお渡しすることになりました。

小学生に上がる前の年齢というのは大切な年齢ですので、関係の方々との協議しながら前に進むように努めていきたいと思っています。

学校との連携ですが、学校ボランティアさんの人数を把握しようということで、秋に学校にアンケートをおこないましたところ、小学校が839人、中学校が124人、合計で963人、約1,000人近い方がいらっしゃるということが把握できました。これだけ大勢の方にどうやって交流をしていただこうかと思案しているところです。

12月には調べ学習についての先生方の研修会に中央図書館からも2名参加させていただきました。

徐々にではありますが、学校との交流を深めていこうと努めています。

(事務局) 未実施の件については、ブックスタートがあつてそれを補完するセカンドブックがありますが、その在り様については、例えば2歳のところ、3歳のところ、小学校入学時に本を1冊渡すようなところもあります。予算が伴うことでもありますが、色々な事例を集めてどういった方法がいいのかということを検討したいと思っています。

(委員) ブックスタートを実際に担当している方というのは、主任児童委員が2人とボランティアさんが3、4人です。私は主任児童委員として担当していますが、特別講習は受けていません。プリントをもらってこんな様な趣旨でこんな様なことを言うて下さいという紙はもらいましたが、読むか読まないかも、どんな内容を話すかも本当にそれぞれの資質で、個人にお任せです。私はできるだけ図書館の説明をしたりして色々なことを言いますが、図書館を重視して話すのか、子育てを重視して話すのか、本を読むことを重視して話すのかは、本当にお任せでして、他の方がどんなふうにやられているのかわかりません。だいたい一人当たり10分から20分ぐらい本を読みながら、お母さんと話をするというふうに時間をかけています。

(委員) ブックスタートに力を入れてやるのでしたら、研修があつた方がいいと思います。今日色々資料も見せていただいて、すごく素敵な事業がたくさんあつて良かったなと思いますが、今現在あまり本に興味がなくて図書館にも来たことがないという人を対象にした何かがあるとすごくいいなと思います。

一番初めの入り口がブックスタートでのお母さんへの働きかけなので、共通のこの事は是非お話してください。

一宮市子ども読書活動、図書館について、他の市町村からの視察・見学はありますか。

(事務局) 市議会関係の方が多くいますが、毎週視察に来ていただいているような状況です。来週ですが瀬戸市図書館友の会が来館されます。市民の方が他市から見学に来てくださるということもありますし、子ども読書のまち宣言についてのご質問もいただいています。

複数の委員の方からブックスタートについてのご意見をいただきました。中保健センターでブックスタートを担当して下さる方々の説明をお聞きしていますと、それぞれ皆さん図書館のことをご説明いただいているように思っていました。今後は、図書館の紹介ということも含めて共通の内容になるように検討していきたいと思っています。

(委員) 読書通帳についてですが、3歳から入学までの間というのは、保育園に行くと絵本を読む機会がすごく多いです。ですからその子ども達に読書通帳が行き渡っていないのがすごく勿体ないという気がして、保育園、幼稚園から配っていただけないかと思います。例えば、字が書けなくても星の数は書けるとか、お母さんが代わりに題名を書いてくれて、大きくなって見た時に、こんな本も読んだ、あんな本も読んだと思った時に、絵がぱっと浮かんでくるとか、そういうことがきつといい思い出になると思いますので、未就学児の子になんとかたくさん渡す方法があるといいと思います。

(委員) ブックスタートの時に読書通帳という形ではなく、親御さんが子どもさんと一緒

に楽しんだ本を何冊か書けるような物をお渡しすると、これが幼稚園、小学校と繋がって、今度は自分で書くというふうに繋がっていくのではと思いました。

(事務局) 幼児の方に読書通帳をどう理解してもらうか、一つには子ども達の手ではとても字を書くのは無理ということだと、お父さん、お母さんが代わりに書くということになるというところが一つ焦点だと思いますが、今後、幼児の方にも読書通帳を活かしていただける方法を検討したいと思います。

(会長) 今日の意見、提案を参考にさせていただいて、今後とも子ども読書のまち宣言の啓発事業を大いに展開していただきますようお願いしまして議題（１）については了とさせていただきます。

議題（２）その他ですが、何かありますか。事務局のほうはどうですか。

(事務局) 事務局としては特にございませぬ。

(会長) それでは、本日の議題については、了としたいと思います。

(事務局) ありがとうございます。